

「東郷学園義務教育学校の東郷文弥節人形浄瑠璃伝承活動の取組」

1 学校名

薩摩川内市立東郷学園義務教育学校

2 学年・人数

5年生～7年生 計28人

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

令和4年9月～10月 ふるさと・コミュニケーション科（本校イングリッシュルーム）
令和4年11月2日（水）学園祭りハーサル（本校体育館）

(2) 発表の日時・場所

令和4年11月4日（金）東郷学園義務教育学校学園祭（本校体育館）

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能，伝統行事について

(1) 名称

東郷文弥節人形浄瑠璃（とうごうぶんやぶしにんぎょうじょうり）

(2) 由来

元禄11年（1698年）頃，薩摩藩主島津氏の参勤交代に随行した東郷の郷士たちが帰国の途中，上方（京都）で当時流行の文弥節人形浄瑠璃を観て，感嘆した。その後郷里の子弟の士気を高めるために，上方（京都）から文弥節の師匠を連れ帰り，広めたと言われている。

(3) 構成等

語り太夫・三味線・太鼓・拍子木はそれぞれ一人で行う。男人形は一人，女人形は二人で操る。昔から「人形おどり」とも言われ，踊りが大きく，中でも「かかり」または「だんぎ」といわれる太鼓や三味線・拍子木ではずみをつけて，足拍子を取りながら人形とともに大きく動くところがある。斧削の郷士たちによって伝承され，語りや人形の動きは素朴なのが特徴である。

5 保存会や地域との連携の具体

戦後，東郷町人形浄瑠璃振興会が結成され，伝統芸能を継承していくことになった。人形浄瑠璃の語りの難解さ，後継者不足等により中断と復活を繰り返してきた。昭和57年から，三味線の弾き手不在のため，11年間演じられることはなかった。平成4年，人形浄瑠璃が消え去ることを危惧した関係者が協議し，東郷文弥節人形浄瑠璃保存会が再結成され，保存活動が再開された。東郷文弥節人形浄瑠璃後援会も組織され，地区コミ会長・東郷支所長・東郷学園義務教育学校長も会員となり，保存活動に取り組んでいる。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

東郷学園義務教育学校の5～7ステージ交流学習のテーマの一つとして位置付け、伝承活動に取り組んでいる。東郷文弥節人形浄瑠璃保存会の方が、児童生徒の興味関心を高めることを目的に本物の人形を使用しながら、児童生徒を指導してくださっている。

また平成27年度の夏季休業中に斧渕地区コミが斧渕塾「歴史探訪」を開催し、旧東郷小・中学校の希望する児童生徒・保護者・教職員に東郷文弥節人形浄瑠璃を見る・ふれる・伝統芸能を知る機会を設定した。さらに、希望する児童生徒で「子ども人形浄瑠璃」を組織し、伝承活動に取り組んでいる。

7 取組の様子（練習状況、発表の場等）



【イングリッシュルームでの練習風景】



【学園祭での発表】

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

【児童生徒】

東郷文弥節人形浄瑠璃の歴史を知ることができました。人形を動かすのはとても難しかったです。保存会の方に優しく教えていただき、少しずつできるようになりました。学園祭での発表は緊張しましたが、思ったより上手に発表できてよかったです。

【教職員】

東郷文弥節人形浄瑠璃の歴史を知って、子供たちは伝統を残すことのたいへんさと苦勞を知ったことと思う。大事な文化を継承するために、今回の経験を残すとともに、子ども人形浄瑠璃にも参加してほしい。

【保護者から】

人形を上手に操っていて、沢山練習したのだらうなと感じた。とてもいい経験ができてよかったです。

【地域・保存会の方から】

子供たちには、東郷文弥節人形浄瑠璃の歴史にふれ、実際に人形を操作することで、興味・関心を高めてもらいたい。そして、将来、大人になって、東郷文弥節人形浄瑠璃の担い手になってもらいたい。

また、東郷文弥節人形浄瑠璃の定期講演会も再開するので、保護者・児童生徒にもぜひ参観してほしい。